

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 9
2019・6・8

1 非公式ー EU 農業大臣会議がブカレヒトで開催される

(2019・6・6)

政務次官 Dr. エイケンス：” バイオエコノミー（生物経済）は、生態系上の挑戦と農村地域強化のための問題解決を促進する。ルーマニアの大統領は、非公式ー EU 農業大臣会議をブカレヒトに招いた。それは農業とバイオエコノミーの領域における、研究ー相乗作用の創造のテーマについて、議論するためである。バイオエコノミーは雇用と成長の高まり、そして持続性の目的達成に際して、著しく重要である。これは特にヨーロッパにおける、農村地域の発展のための可能性を創り出す” と、エイケンスが述べた。

” バイオエコノミーの潜在力をより良く汲み出すために、新しい社会モデルと価値創造チェーンが、発展されねばならない。そのため、我々はバイオエコノミーと循環経済の中に農業を組み入れるという、ヨーロッパレベルでの広範な手掛かりを必要としている” と、政務次官が強調した。バイオエコノミーは、2020 年以降の共通農業政策に関する EU ー委員会の提案の中に位置付けられた、農業の新しい EU ー目標の一部である。

同時に加盟国は、持続的でそして資源節約的なバイオエコノミーへの集中をより強化し、それを奨励することを可能にする。同時に、将来的な環境ー気象保護政策の目的を達成するために、貢献すべきである。その際、農業と研究のより強化された共同活動が不可欠である。EU 内における価値創造チェーンとバイオ原料の可能性は、非常に多様であるため、国内戦略プランの傘のもとに、適切な奨励政策が定着されるべきである。

2 連邦政府のイニシアチブドイツにおける母からの授乳

ー研究プロジェクト・適切な授乳の優しさー (2019・6・6)

公的な場での赤ちゃんへの授乳はどのように行っているのか？赤ちゃんが空腹のとき、母がまさに外出中ときーカフェ、公園または列車のなかで？

母親が授乳のテーマに際して、どのように適切に支援されるか。

つまり：ドイツは授乳に対して、どのように思いやりがあるのか？

このことは、連邦食料・農業省（BMEL）のイニシアチブでの研究プロジェクト「適切な授乳の優しさ」で調査された。目的はドイツにおける授乳のための大枠条件の改善である。なぜならば、母親と赤ちゃんは、授乳のための適切な環境を必要としているから。この研究計画の成果が、今提出されている。

母乳は健全な栄養

母乳はそもそも最初から健全な栄養である。母と子供のための授乳の健康上の長所は、既によく証明されている。

- ・授乳は子供の健康のために価値が多い。その際に専ら母乳との関連において、最も強い効果が注目されている。

- ・長期的にみるとかつて母乳で授乳される赤ん坊は、後で子供一成人年齢において、母乳を授乳されない赤ん坊よりも、太りすぎとみられていた。稀に糖尿病 TYP 2 に苦しむ。

- ・母親の健康のためにも授乳は好ましい：乳房、卵巣または子宮粘膜の癌罹病のリスク、糖尿病 TYP 2 または心臓血管病が、同じように低下する。

授乳は母親と子供の結びつきを支援する。そして子供に対して母親の感情移入と信頼性、繊細さについても影響を及ぼす。

授乳は学びのプロセス：ドイツにおける現在の母乳の授乳割合と推奨

授乳は母親と子供のために最も良いことある：

- ・生後第1半期において乳児は授乳されるべきであり、最低限5ケ月初めまで、つまり最低満4ケ月末

- ・乳児の補充食の導入後もまた一遅くとも7カ月初めに一乳児はさらに授乳されるべき

- ・全体的にどのくらい長く授乳するかは、母と子供が決める。(2016 ネットワーク「生活の中の健康」の公的行動推奨)
- ・生活の中の健康—ネットワーク 若い家族

ドイツの母親の 90%強は、子供に授乳させるために注意を払っている。しかし、授乳は自ずと進行していくものでなく、教育プロセスである。常にうまくいくのではなく、それが正常である。

- ・母親の 68%のみが、誕生後子供に専ら授乳する。次の月にその回数は明らかに減っている。2 カ月後に約半分以上 (57%)、4 カ月後にそれは 40%のみとなる(専ら授乳することを推薦する最低授乳期間)。
- ・これは母親が授乳に際して、より多くの支援を必要としていると推定される。なぜならば、授乳は覚えねばならないから。
- ・社会的にハンデイのある生活環境の子供たちは、回数が少なくそして短く授乳される。その子供たちは、授乳の健康上の長所からほんの少しの利益を、得るだけである。
- ・授乳の奨励は、健康上の機会均等のための貢献を果たす。

授乳に優しいドイツ—成果とさらなる歩み

授乳奨励の目的：

- ・母親は情報を伝える意思をもつこと
- ・授乳は母と子の 1 つのチャンスである
- ・授乳は至るところで可能である。カフェ、バス、公園のベンチで。

ドイツは、現在母親と家族に提供している「研究プロジェクトの成果」現代的な授乳に優しい環境”

- ・ドイツにおける授乳奨励の重要な政策の財政立法を、強化する必要がある(母親の保護と児童手当のような)。
- ・ドイツは、特に研究そして評価、PR の行動分野において、弱い結果になっている。この研究は、多くの個別行動のあることを示している。だがしかし、これはより良く調整され、そしてコミュニケーションを図る必要がある。
- ・そのために、中心的な調整センターが開設された。これは授乳奨励のための国内戦略を発展させ、実践するためである。

- ・国民レベルで授乳の受入れを向上させるために、そして授乳の長所についての知識を、目的グループ特有に改善するために、授乳奨励のコミュニケーションが強化されるべきである。
- ・連邦食料・農業省（BMEL）は、研究と評価強化のために、マックス ルーブナー研究所（MRI）内にある「子供の栄養研究所」の設立でもって、既に重要な転轍機を入れている。なぜならば、ここで特にドイツの授乳モニタリングが実施されているからである。
- ・さらに専門家委員会から推奨されているように、MRI 内に調整センターが設立された。それは授乳奨励のための「国内戦略」を策定し、そして実践を推奨するためである。
- ・我々は同じく MRI に設置された国内授乳委員会とともに、このテーマについての専門知識の結集を行う。
- ・授乳の専門家が国民レベルで増加し、そして特定グループに目標を定めて、それを達成するために、BMEL の所轄のもとに、ネットワーク「健康」からコミュニケーション戦略を発展させる。

研究プロジェクト

BMEL のイニシアチブでもって奨励されている研究計画「適切に母乳で育てる優しさ（BBF）」は、ドイツにおいて授乳奨励の状況を初めて、系統的にそして広範にとらえている。この研究の分析とその成果の推奨でもって、ドイツの社会は授乳に優しくなるべきである。それ故に、現在の授乳奨励の長所と短所が示される。この研究計画は、連邦食料センター（BZfE）にある「生活の中の健康とネットワーク」、国内授乳委員会と公共の健康・イエール学校と共同活動において実施される。

さらに政治、実践、科学そしてメディアからの専門委員会が、あらゆる重要な授乳奨励の全ての行動分野に関する情報を調査し、そして 54 の国際 BBF ー評価基準を基礎に、系統的にデータを分析した。この結果は、2019 年 6 月 5 日にベルリンにおける終了会議で紹介された。これは子供の最初の 1000 日に焦点をあてた、IN FORM（ドイツのイニシアチブで健全な栄養とより多くの運動を）の国内行動プランのさらなる発展の中に組み入れられる。最初の 1000 日は、全生活段階におけるバランスある栄養について、BMEL の所管業務の重点を構成している。

3 学校コンクール：生物多様性のための大使（2019・6・5）

政務次官ミヒアエル シュトープゲンは、「2019 ECHT-L」の学校コンクールの受賞グループを表彰した。”私は生物多様性のために、子供達と青少年が多くの喜びをもって、参加したことに感激している。「多様性の畑—自然の中でそして共同活動」のモットーのもとで、2800人の子供たちと青少年が、連邦政府の学校コンクール「ECHT KUH-L」（訳注・本物の乳牛-L）に参加した。

あらゆる創造—メディアプロジェクトから、42の入賞者が表彰された。第1位は、今日ベルリンで政務次官から表彰された。”自然の中での相互性、そして畑と土壌における多様性が不可欠である。なぜならば、種の多様性の保持は農業の基本的な前提条件である。そのため、このコンクールでもって生物多様性の大使として、多くの生徒を獲得できたことは素晴らしいことである”と、政務次官は述べた。

BMELは2018年11月に第3学年から10学年の生徒に、参加を呼び掛けた。

この学校コンクールで幾つかの年次グループが、アイデア豊かな貢献のために、優勝者トロフィーの金賞が授与された。今回、バーデナーヴェルテンベルグ州から3つ、そしてノルトライン—ヴェストファーレン州から1つの優勝者グループが生まれた。

1 3～4学年クラス

バーデナーヴェルテンベルグ州 オッフエンブルグ フェーゼンバッハのヘルベルトブルダ基礎学校の「学校園 トマトプロジェクト」

2 5～6学年クラス

バーデナーヴェルテンベルグ州ベルガートロイテ 宗派混合学校5年クラス

3 7～8学年クラス

ノルトライン—ヴェストファーレン州 ヒュケルホーヴェン
全日制基幹学校8年クラス 「我々の足の下で」解説ビデオ付き

4 9～10学年クラス

バーデナーヴェルテンベルグ州 バートセッキンゲンのルードルフ ガーバー学校 9学年クラス

特別賞の学校は2校である：チューリングン州のアイゼナッハにあるマーチン ルター ギムナジウム（訳注・基礎学校4年を経て入る9年制の高校）が、”蜜蜂を捨てないで”の活動で表彰された。

もう1校は、ノルトライン—ヴェストファーレン州のノルトリップペ エグザータールにある総合学校（訳注・1~13年までの一貫学校）で、「多様性のある畑」

の活動で表彰された。全体で 422 校がコンクールへの申込書を提出した。これは貴重な共感を生み出した。生徒たちは、有用生物と有害生物、バクテリア（根粒菌）とマメ科作物、授粉昆虫と他の昆虫とともに活動した。彼らは植物と動物、そして微生物が互いに不可欠であることを学んだ。

多くの生徒たちは、自ら多様性の奨励を行った。彼らは知識と刺激を創造的、啓蒙的そして示唆に富む貢献を行った。相互作用的な遊び、漫画、ポスター、歌、ウェブサイトそしてプロジェクト記録の資料でもって。我々はコンクールを通じて、自然における重要なパートナーシップと友好関係について学んだ。これは参加者の認識でもあった。このコンクールは、BMEL の持続的な農業と食料のための連邦レベルの学校コンクールである。全 42 の入賞者の概要は、WWW.echtkuh-l.de で検索できる。

4 連邦農業省がビールの連邦賞を授与（2019・6・5）

政務次官シチュープゲンが、連邦食料・農業省の最高賞を授与した。” 今日表彰されたドイツ最高品質ビール醸造所の下には、全連邦地域からの多くの小一中規模醸造所もまた、信じがたいほどの多様性と高品質性を示している” と、政務次官は述べた。” 私はドイツビールの高品質性と多様性に、再三再四感銘を受けている。これらは 1561 年以来継続しているビール純粹令（訳注・ビールの醸造に大麦、ホップ、水以外の原料の使用を禁止する規則、後に酵母が加わる）が、大きく貢献している。ビール醸造のために、4 つの自然的な補充物のみが許可されている” と、政務次官が述べた。

2008 年以降、ドイツの高品質規準を典拠に表彰が行われている。テストのために準備されたコンクール参加ビールは、ドイツ農業協会（DLG）によって、分析及び味覚上の専門的評価がなされる。DLG 一品質試験において、特別に優秀な総合評価を得たビールの醸造所が表彰される。表彰状の授与は、政治、経済そしてメディアから招かれたお客約 250 人の前で、ドイツビール醸造所連盟による「ビール醸造フォーラム」の際に行われた。政務次官、DLG 一副会长 Dr.デートリッヒ、さらにバイエルンビール女王、同じくホップ女王が同席のうえ、メダルと証書が手渡された。

2019・6・7 訳 青森中央学院大学 中川 一徹
